

抗血小板薬の再開指示を確認し処方依頼した例

プレアボイドとは薬学的ケアから患者の不利益（副作用、相互作用、治療効果不十分など）を回避あるいは軽減した事例を意味します。今回は、内視鏡的処置後に抗血小板薬の再開指示を確認し、処方を依頼することで、適切な薬物療法に貢献したプレアボイドを紹介いたします。

患者背景

▶原疾患に対して内視鏡的処置目的で入院された患者

【持参薬（一部抜粋）】

- ・タケルダ配合錠（アスピリン 100mg/ランソプラゾール 15mg 配合錠）
※内視鏡的処置日にタケルダ配合錠の休薬指示が出ていた



B さん

内視鏡処置当日

B さんは、内視鏡的処置でタケルダ配合錠が休薬となっていたので、再開指示が出ているか確認しよう。
カルテでは、明日（内視鏡的処置翌日）から内服全て再開と指示が出ている。ランソプラゾールは処方されているが、アスピリンが処方されていない。アスピリンも再開か確認しよう。

明日から内服再開を予定している B さんですが、元々服用されていたタケルダ配合錠について、ランソプラゾールのみ処方されています。アスピリンの再開に問題なければ、処方をお願いしますでしょうか。

確認ありがとうございます。
そうですね、出血リスクは低いのでアスピリンも再開する予定でした。追加で処方しておきます。また、ランソプラゾールは、タケキャブに変更します。

ありがとうございます。
B さんにも薬の再開と変更について説明しておきます。



医師



薬剤師

その後、バイアスピリン錠が処方され、内視鏡的処置翌日より速やかに再開された。入院中、出血等の有害事象なく経過し、退院となった。

内視鏡的処置後に抗血小板薬の再開指示を確認し、処方を依頼することで、適切な薬物療法に貢献できた。